
魔と霊

健神

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔と霊

【Nコード】

N9610F

【作者名】

健神

【あらすじ】

この物語は魔界と霊界さらには人間界をもまきこんだ本格格闘派スト・リ

プロローグ

この世界には魔界と霊界
とよばれる二つ相對する世界があつた……。魔界を統治する魔
局では・・・

魔人

「大変です!」

魔神

「何事だ!?!」

魔人

「魔界と人間界をつなぐ霊神空間が開きつつあります!」

魔神

「何!?!すぐ国王に報告だ!」

霊界を統治する霊局では・・・

霊神

「大変なことになってまった・・・」

霊人

「どうしたのですか?」

霊神

「人間が・・霊神空間を開こうとしているとの情報がはいた」

霊人

「!!」

霊人

「あの霊神空間をですか!？」

霊神

「そうだ」

と、どこかなしそうにいった。

霊人

「そもそも霊神空間ってなんなんですか!？」

霊神

「私も詳しくは知らないが、昔魔局と霊局の局長とそのNo.2とNo.3がB級以上の魔神たちを人間界にいけないようにするためにつくったものらしい」

霊人

「では、その人達に来てもらえばいいんじゃないですか?」

霊神

「それは無理だ!」

霊人

「なぜです？」

霊神

「霊神空間を造った時の魔局初代局長は・・・」

霊人

「・・・」

霊神

「あの、闘神とつたわれた健無だからだ！！」

第1章 人間界では・・

それから一年前・・・

人間界・・・

百道

「あと少しだ・・霊神空間を・・ひらく」

渾然

「あせるな！我らの目的はこの人間界の破滅だ」

渾然は威厳のある声で言った。

渾然

「我が同士たちよ！恐れるな！霊神空間が開いた時、我らは人間界を滅ぼし、魔界の力を我が物とするのだ！」

同士達

「おおー！！」

渾然

「さてと・・仲間集めでもするかな」

無明

「仲間？そんなの集めてどうするんだ？」

渾然

「しかたないだろ・・・このままの戦力では魔界の半分も統治できないよ」

無明

「その通りかもな・・・」

渾然

「我が武装軍艦にいる主力メンバーをまとめてみると・・・」

N o . 1 渾然

N o . 2 無明

N o . 3 矯正

N o . 4 百道

N o . 5 外道

渾然

「今現在魔界にいつてまともに闘えるのは俺とお前を含めて5人だけなんだぞ!」

無明

「何!?!じゃあN o . 5以下は魔界では通用しないというのか!」

渾然

「ああ、通用しないな・・・。」

無明

「・・・」

渾然

「無明・・・魔界をあまくみるなよ・・・」

そう言つて渾然は部屋をでていった・・・。

群馬県服部市

渾然

「とんでもなく強い気を感じたのだが・・・」

烏丸

「おめーなんのようだ？」

渾然

「・・・この男・・・本物だ・・・」

ニヤリと渾然は笑みを浮かべた。

烏丸

「何笑つてやがる！」

渾然

「いや、失敬、名前を覚えていただきたい」

烏丸

「烏丸だ！おめーは？」

渾然

「渾然だ」

烏丸

「で？渾然さんよ、俺になんか用かい？」

渾然

「率直に言う・・・我らの仲間になれ！」

烏丸

「なぜだ？」

渾然はこれからしようとしていることをすべて話した

烏丸

「わかった。俺もつまらね・毎日に飽きてたんだ。手伝っぜ！」

二人はがっちりと握手した。

後にこの二人の出会いがとんでもないことを引き起こすことになる
とはまだ誰も知らない・・・

第2章 魔界では・・・

魔界・・・

ここは魔界でもA級以上がいるところそんなとこにこの国はあった。

魔神

「健無国王様、霊神空間が開こうとしているとの情報が入っております」

健無

「ほおっておけ」

魔神

「なぜです!？」

健無

「ほかの奴らがなんとかするだろ・・・」

魔神

「はっ!」

そう言つて魔神は部屋を出ていった。

健無

「それに俺は強い奴と闘えればそれでいい・・・」

健無は静かにそして力強く言つた。

ほかの奴ら・・・それはこの国と敵対している二つの国のことである。

一つ目は、雷同とよばれる技神が統治する国である。

もう一つは天龍と呼ばれる知神が統治する国である。

今までこの三国のおかげで魔界は霊界とうまくやってきたのである。

そして霊局が設定した魔界にいるものたちのランクを説明しよう。

S級以上	神系
A級	帝系、隊長系
B級	魔神、霊神系
C級	魔人、霊人系
D級以下省略。	

尚、これらは霊局が認定したので、人間界の住人が魔界に来たときにランクづけをすることにする。

以上がランク表とする。

話しは戻りここは雷同が統治する国、早雨。

魔神

「雷同様、お話が！」

雷同

「何ですか？」

魔神

「あの霊神空間が開きつつあるとのことですよ。」

雷同

「そうですね・・・あの空間が開けばこちらはとてもうれしいのですが・・・」

魔神

「どうされたのですか？」

雷同

「いや、あの空間を造ったのはあの健無とその当時最強といわれた5人なのですよ」

魔神

「健無・・・この時代知らない人はいないといわれる＜闘神＞にして彰華国の国王、健無のことですか！？」

雷同

「そうですね・・・」

魔神

「でも何故、健無は霊神空間を造ったのですか？」

雷同

「人間界を守りたかったんじゃないですかね」

魔神

「雷同様は反対しなかったのですか？」

「

雷同

「反対はしましたよ・・天龍と共にですけど」

魔神

「じゃあ何故あの空間は今もあるのですか？」

第3章 魔界では・・・その2（前書き）

遅くなるかもしれませんが頑張って書くので応援よろしくお願いします！

第3章 魔界では・・・その2

雷同

「私達が負けたからですよ・・・」

魔神

「・・・失礼しました・・・」

雷同

「いや、いいですよ

・・・思い出せばあの当時の健無は強かったですね・・・」

と昔を思い出すように言った。

雷同

「私達は本気で闘った・・・しかし健無は本気ではなかった・・・」

魔神

「そんな・・・」

雷同

「そして健無は私達を生かしこういった・・・」

雷同

「お前達はまだまだ強くなる・・・その時再び刃を交えよう・・・と。」

魔神は思った・・・なぜ雷同様はうれしそうな顔をしているのかと。

雷同

「霊神空間が開くとなればまた闘うかもしれませんがね・・・」

魔神は背筋に悪寒を感じた・・・。

魔神

「もし、霊神空間が開いたらどうするのですか？」

雷同

「そしたら闘うしかないでしょう」

魔神

「戦争・・・ですか？」

雷同

「そうなるでしょう」

雷同はわかっていた・・・次におこりうる闘いがこの魔界の王を決めることになるということを・・・。

そのころ天龍が統治する天光国では・・・

天龍

「ついに霊神空間を開くのか・・・」

天龍は笑いながら言った。

魔神

「どつという意味ですか？」

魔神は不思議そうに聞いた。

天龍

「干瓢を呼べ。」

魔神

「わかりました。」

ボタン・・・

部屋に一人の青年が入ってきた・・・

天龍

「きたか！」

青年はニッコリ微笑んで言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9610f/>

魔と霊

2010年11月29日08時24分発行